

走り幅跳び

2021. 9. 15

陸上競技には、走り幅跳びという種目がある。オリンピックを見ていると、人はこんなにも跳べるものなのかと思わされる。

本校には、陸上競技部がある。昨年から、部活動指導員として、Kさんに技術的な面を中心に指導をお願いしている。このKさんは、陸上競技の専門家であり、走り幅跳びの指導者として数々の実績を残してきた方である。

本校の陸上競技部員は、県大会に出場し、数名が入賞を果たした。女子走り幅跳びに出場したNさんは、県大会で優勝し、秋田での東北大会に出場した。そして、東北大会でも入賞した。本人の努力はもちろんのこと、ご家族のバックアップ、顧問の先生からの指導、そして何よりもKさんの存在が大きいことは間違いない。

Kさんと話していると、一人一人の部員のことを、よく理解していただいていることがわかる。さすがに、長年にわたり、多くの子どもたちを指導してきた方である。部員である生徒からすると、Kさんは、顧問の先生とはまた違った存在であり、専門的な技術指導だけではなく、いろいろな話ができる相手なのかもしれない。

走り幅跳びのNさんは、大会に行く前と大会から戻ってきたときに、きちんとあいさつに来てくれた。こちらも、見送りやお迎えに行っている。自然と、話す機会が多くなる。Nさんには、将来に対する明確な目標がある。今後は、それに向けて努力を重ねる日々が続く。

話していて、Nさんなら、自分の夢を叶えてくれそうに思えた。ぜひ、夢を叶え、多くの人役に立ってほしい。陸上競技を通して学んだことは、きっとNさんの人生の糧となるはずである。けがをして、思い通りにいかなかった日々も、決してマイナスではない。思うように練習できなかった分、多くのことを学んだはずである。人に支えられていることを実感できたことだろう。

Kさんと私が、ついつい昔話に花を咲かせてしまうことがある。Nさんは、それを隣でずっと聞かされている。まあ、これも無駄ではないだろう。何かしらの役に立つかもしれない。そう思いたい。

Kさんが、言っていた。Nさんは、本来ならば、もっともっと跳べるのだと。高校に進んでから、一気に本来の力が開花するかもしれない。それも楽しみだが、世の中に出て、より高く遠くに跳んでくれることを期待している。

高く遠くに跳ぶためには、助走が大切であろう。中学校での経験も、これから待ち受ける高校での経験も、大切な助走である。社会に出るまでに、どのような助走ができるか。それが、どこまで跳べるかのカギとなる。

Kさんには、これからも陸上競技を通して、Nさんのような選手を一人でも多く育ててほしい。その選手にとっては、人生を左右する大きな出会いとなるかもしれない。